

やんばる(沖縄県北部地域)では、毎年、9月～10月にかけて、各地で豊年祭が開催されます。今年度、一般社団法人地域活性化センターの補助を受け、NPO法人HI COおよび北部広域市町村圏事務組合主催の、「地域受け入れ事業-伝統芸能体験&地域交流体験」が、今帰仁村(湧川地区・諸志地区)で開催され、名桜大学の学生8人が踊り手として参加しました。五穀豊穰を祈願する「豊年祭」は、地域ごとに伝承された型や特徴が際立つ伝統芸能の祭典でもあります。その継承が難しくなっていることから、地域の大学生が、踊りの練習(約1か月)を通して地域住民と交流を深め、踊り手として、豊年祭に参加するという大変意義深い活動でした。参加した学生の声を紹介します。

大城凌子 地域連携機構長

(参加学生の声)

■渡具知舞華(看護学科2年次、沖縄県立名護高校出身)

■翁長 美月(看護学科2年次、沖縄県立名護高校出身)

私達は、幼いころから舞踊を習っていましたが、今回は、諸志地域に伝わる伝統的な踊りを学ぶことができました。演目は「浜千鳥」で、これまでも何度か踊った経験はありましたが、地域によって伝承されている型があるということを経験し、貴重な経験でした。また、地域の方と一緒に練習に参加することで、「豊年祭」の開催に込められた住民の思いを実感することができました。諸志区では、4年に1度の開催となり、踊り手不足が課題になっていると話していました。参加したことで地域の方々と楽しく交流することができ、一緒に、豊年祭を盛り上げることができて、有意義な体験でした。

■中村千紘(看護学科1年次、沖縄県立首里高等学校出身)

湧川区の豊年祭に参加させてもらい、そこで四つ竹を踊らせてもらいました。1ヶ月の練習で、はじめは絶対に踊れない！と思うほど、そして思われるほど、全く出来ませんでした。地区のおじさんや、前年に踊った方に教えてもらいながら、取り組み、本

番をなんとか終えることができました。沖縄で生まれ育ちながら、伝統芸能をみることも触れることもなかったので、とても良い機会になりました。湧川の住民の方が声をかけて受け入れて下さったので、安心して取り組みました。実際に関わってみないと分からない、沖縄のよさが詰まっている地区だと思いました。本当にありがとうございました。

■多田 楓(看護学科1年次、兵庫県立三木高等学校出身)

今帰仁村湧川区の豊年祭に、四つ竹で参加させていただきました。私は関西の出身なので、沖縄の伝統芸能に興味はありましたが、自分にできるのかという不安もありました。案の定、練習が始まった頃は、琉球舞踊の指導の方々から、下手すぎて断わろうと思ったと聞かされました。しかし、琉球舞踊の先輩と一緒に踊る湧川区の方々のあたたかい教えや、アドバイスのお陰で本番までに踊りを覚えることができ、本番後には先生方に褒めてもらうことが出来ました。毎日、練習をしていたこの3週間は湧川区の方のあたたかさで本当に楽しく、伝統芸能を学べた事は貴重な体験となりました。これからも、この縁を大切に、湧川区の行事に参加したいと思います。こんな未知な私達を受け入れ、優しく暖かく迎えてくれた湧川区の皆さん、本当にありがとうございました。



